なかのやま
中野山遺跡　第7次 （No，2）

発掘調査成果の総決算！！

2012 年８月盆明けから始まりました中野山遺跡第７次発掘調査が、2013 年１月７日をもって終了しました。約４ヶ月間の調査期間中、色々な遺構や遺物と出会うことができました。

今回は調査終了にあたり、第７次調査の総決算と題して、その成果を盛り沢山にしてお伝えしたいと思います。

写真１　北区完掘状況全景

写真２　南区完掘状況全景①

１．縄文時代の集石炉を発見

石が沢山入っている穴…これは、集石炉(しゅうせきろ)と呼ばれる火を焚いた跡です。今回の調査では１基がみつかりました。炉は、直径約１ｍの大きさをしています。写真３は発見された時の状況で、炭が混じる真っ黒な土の中に小石が詰まっていました。これを掘っていくと…写真４の状況となり、底には拳大の石が並べられていました。

この集石炉は、民俗例から食べ物を蒸し焼きにするために使われたものではないかと考えられています。中野山遺跡にいた縄文人も蒸し物を食べていたのでしょうか？想像がふくらみます。

写真３　集石炉発見状況

写真４　集石炉の底に並べられた石

２．古墳時代の竪穴住居

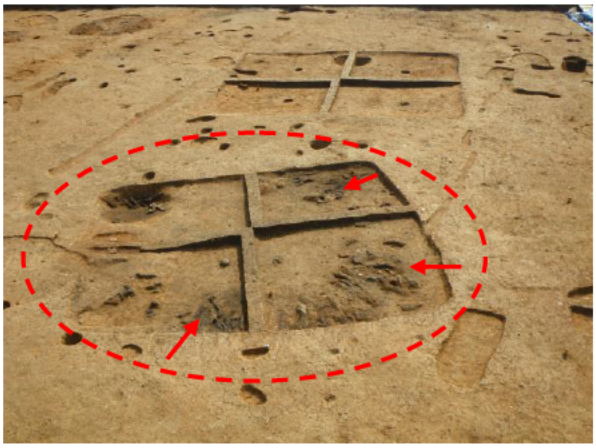

写真５　竪穴住居①(古墳時代後半)全景

写真６　竪穴住居②(古墳時代後半)全景

古墳時代の竪穴住居(たてあなじゅうきょ)は３棟みつかりました。時期は出土土器から古墳時代前半頃の住居と後半頃の住居に分かれます。このうち古墳時代後半頃の住居についてご紹介します。

写真５にある手前の住居(赤の破線で囲ってある住居)は、←の部分に住居の材料と考えられる木材が炭化した状態で出土しました。何かの原因で焼けてしまった住居の可能性が考えられます。

写真６の住居には、食べ物を煮炊きするために住居内に作られたカマド(緑の破線の部分)が残っていました。カマドの底(←の部分)には、火で焼けた焼土(しょうど)がみつかりました。

これらの竪穴住居からは、土師器(はじき)の甕(かめ)や甑(こしき：蒸し器)、須恵器(すえき)の坏(つき)などが出土しました。

３．飛鳥～奈良時代の集落

【竪穴住居】

飛鳥～奈良時代の竪穴住居は９棟みつかりました。写真７の住居は、掘りきってしまった後の状態です。掘ってみると住居の屋根を支えた柱跡と思われる穴(|の部分)がみつかりました。

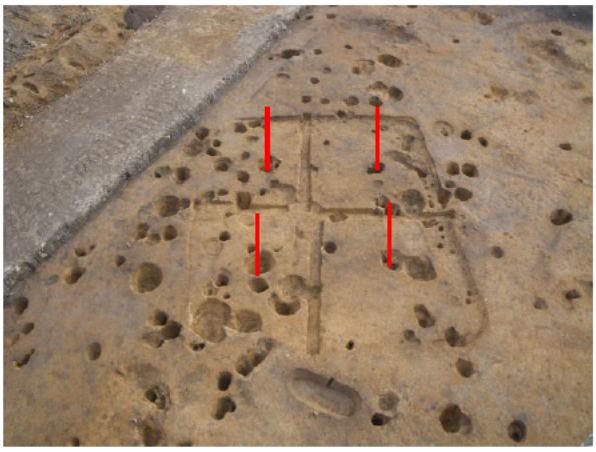

写真７　竪穴住居③(飛鳥～奈良時代)全景

写真８　カマド(飛鳥～奈良時代)遺物出土状況

写真８は、住居内に作られたカマドから出土した遺物の状態です。土師器の甕の破片が沢山出土しました。また、カマドで火にかける甕を支えるために使われた石(緑の破線の部分)が、カマドが使われていたときの状態でみつかりました。

【掘立柱建物】

写真９　掘立柱建物①発見状況

写真 10　掘立柱建物②完掘状況

掘立柱建物(ほったてばしらたてもの)は６棟みつかりました。写真９は発見された直後の建物で、柱があった場所に人が立っています。建物は、長辺(南北)が 5.5mで柱間数が３間、短辺(東西)が 3.5mで柱間数が２間の長方形をしていました。写真 10 は掘りきってしまった後の状況の建物で、白い線が通っている穴が建物の柱穴です。建物の短辺(東西)が 3.5mで柱間数が３間、長辺は建物が調査区の外にものびているため不明です。

４．鉄滓が出土した土坑

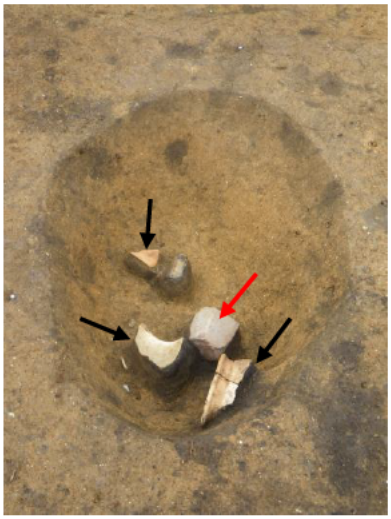

写真 11　土坑遺物出土状況

写真 11 は土坑(どこう：物を廃棄するために掘られた大きな穴)から出土した遺物の状況です。土坑は、横 70 ㎝、縦 1.1mの大きさで、楕円形のかたちをしています。←の矢印は土師器の甕の破片で、←の矢印は砥石(といし：物を磨くために使われた石)が出土しました。また、埋まっていた土の中からは、鉄滓(てっさい：鉄を加工する時に出るクズ)が２点出土しました。

鉄滓は、鍛冶(かじ)に関係する遺跡から出土する特殊な遺物です。また、この土坑からではありませんが、鞴羽口(ふいごはぐち：鉄加工などの際、炉に空気を送るために使う道具)が、今回の調査で１点出土しました。鉄滓と鞴羽口の出土を合わせて考えると、中野山遺跡と鍛冶との関連性を想像させられます。

３年間におよぶ中野山遺跡の発掘調査終了と今後…

国道 475 号東海環状自動車道の建設予定地内における中野山遺跡の発掘調査は、今回の調査をもって対象範囲(14,390 ㎡)全ての発掘調査が終わりました。３年間におよぶ調査では、古墳時代末～奈良時代の竪穴住居と掘立柱建物からなる大規模な集落跡であることが明らかになりました。また、縄文時代の煙道付炉穴(えんどうつきろあな：トンネル状の穴で火を焚いた跡)が 15 基、集石炉が９基みつかりました。さらに、出土遺物には弥生土器もみられるため、縄文時代から奈良時代に至るまでの長い間、人々の生活の場として使われていることがわかりました。

今回の第７次調査で出土した鉄滓や鞴羽口は、過去の第２・３次調査でも沢山みつかっています。これらの出土遺物から、今後中野山遺跡を考えるにあたっては、鍛冶との関係性を十分に検討する必要があると考えられます。また、このことは古代の「大金郷(おおがねごう)」と何らかのつながりがあったことを示しているとも考えられるため、一連の調査で得た調査資料はこの地域の歴史を考えるにあたって、とても貴重なものになるといえるでしょう。

最後に、ご協力いただきました地元住民・関係機関各位にお礼を申し上げるとともに、今後も地域に根差した埋蔵文化財の調査およびその活用を行っていきたいと思います。

写真 12　南区完掘状況全景②

【問い合わせ先】
三重県埋蔵文化財センター　調査研究3課(四日市整理所)
〒512-8064　三重県四日市市伊坂町126-1
電話番号：059-363-3196（東海環状担当）／ファックス：059-363-3196
E-mail：maibun@pref.mie.jp
担当：穂積　裕昌・渡辺　和仁